

〇君の新秋

芥川龍之介

青空文庫

僕は膝ひざを抱かかへながら、洋画家のO君と話してゐた。赤シヤツを着たO君は畳たたみの上に腹はらば這ひになり、のべつにバツトをふかしてゐた。その又O君の傍かたはらには妙にもものしい義足が一つ、白足袋たびの足を仰向あふむかせてゐた。

「まだ残暑と云ふ感じだね。」

O君は返事をする前にちよつと眉まゆをひそめるやうにし、縁先えんさきの紫苑しをんへ目をやつた。何本かの紫苑はいつの間まにか細こまかい花むらを簾がらせたまま、そよりもせずに日を受けてゐた。

「おや、こいつはもう咲いてゐらあ。この………何なんと云つたつけ、
団扇うちはの画の中にゐる花の野郎やろうは。」

×

海の音の聞えない、空気の澄んだ日の暮だつた。僕はやはりO君と一しよに広い砂の道を散歩してゐた。すると向うからお嬢さんが一人、ひとりいけ垣がきに沿うて歩いて来た。白地のかすり緋に赤い帯をしめた、かなりせい可也背せいの高いお嬢さんだつた。

「あ、あのお嬢さんは気の毒だなあ。長い脚あつかを持って扱あつかつてゐる。」
実際その又お嬢さんの態度はO君の言葉にそっくりだつた。

×

○君は杖つゑを小脇こわきにしたまま、或大きい別荘の裏のコンクリイトの塀へいに立ち小便をしてゐた。そこへ近きん眼鏡がんきやうか何かかけた巡じゆん査さが一人通りかかつた。巡査は勿論咎とがめたかつたと見え、白扇はくせんで○君を指さすやうにした。

「これです。これです。」

○君は多少吃どもりながら、杖で二三度右の脚を打つた。右の脚は義足ぎそくだつたから、かんかん云つたのに違ひなかつた。

「僕の家うちはそこなんですが、……」

巡査はにやにや笑つたぎり、何も言はずに通とほりすぎてしまつた。

家々の屋根や松の梢こすねに西日の残つてゐる夕がただつた。僕はキヤンデイイ・ストアアの前に偶然O君と顔を合せた。O君は久しぶりに和服に着換へ、松葉杖をついて来たのだつた。

「けふは松葉杖だね。」

O君は白い歯を見せて笑つた。

「ああ、けふはオオルかい(權)にしたよ。」

×

×

僕はO君の家へ遊びに行き、四畳半の電燈の下にいろいろのこ
とを話し合つた。が、大抵は神経とかテレパシイとかの話だつ
た。Uと云ふ僕の友だちの一人はコツプに水を入れて枕もとへ置
き、暫くたつてそのコツプを見ると、いつか水が半分になつてゐ
る、或晩などはうとうととしてゐると、いきなり顔へ水がかつた。
しかし驚いて飛び起きて見ると、コツプだけは倒れずにちやんと
してゐる、——そんな話も出たものだつた。

それから僕等は散歩かたがた、町まで買ひものに出かけること
にした。するとO君はいつもに似合はず、肘掛け窓の戸などをし
めはじめた。のみならず僕にかう言つて笑つた。

「この窓に明りがさしてゐるとね、どうもそこから歸つて来た時

に誰か一人ここに坐つて、湯でもものんでゐさうな気がするからね

。」「

O君は勿論この家に自炊生活をしてゐるのである。

×

O君はけふも不^{あひかはらず}相^{あひかはらず}変^{あひかはらず}赤^{あひかはらず}シヤツに黒^{あひかはらず}いチヨツキを着^{あひかはらず}たまま、午^{あひかはらず}前^{あひかはらず}十一^{あひかはらず}時の裏^{うらびさし}庇^{うらびさし}の下^{うらびさし}に七^{しちりん}輪^{しちりん}の火^{しちりん}を起^{しちりん}してゐた。焚^{たき}きつけは^{たき}枯^{たき}れ松^{たき}葉^{たき}や松^{たき}蓋^{まつかさ}だつた。僕^{うらきど}は裏^{うらきど}木^{うらきど}戸^{うらきど}へ顔^{うらきど}を出^{うらきど}しながら、「どう^{うらきど}だ^{うらきど}ね？^{うらきど} 飯^{めし}は炊^たけるか^たね？」と言^たつた。が、O君^たはふ^たり返^たると、僕^たの問^たには答^たへずにあ^たたりの松^たの木^たへ願^{あごと}をや^{あごと}つた。

「かうやつて飯を炊たいてゐるとね、松は皆焚たきつけの木——だよ」。

×

パナマ帽をかぶつたO君は小高い砂丘に腰をおろし、せつせとブラツシユを動かしてゐた。柱だけの白いバンガロオが一軒、若い松の群むらだ立つた中にひつそりと鎧よろひど戸おろを下してゐる。——それを写生してゐるのだつた。松は僕等の居まはりにも二三尺の高さに伸びたまま、さすがに秋らしい風の中に青い松かさを実のらせてゐた。

「松ぼつくりと云ふものはこんな松にもなるものなんだね。」

O君はブラツシユを動かしながら、僕の方へ向かずに返事をした。

「女の子が妊娠にんしんしたと云ふ感じだなあ。」

×

O君は本職の仕事あひだの間にせつせと発句ほつくを作つてゐる。ちよつとO君を写生ついでした次手にそれ等の発句もつけ加へるとすれば――

らん竹ちくに鋏はさみ入れたる曇りかな哉

夜具やぐわた綿へちまは糸瓜ほの棚に干しもせよ

わくら葉は蝶てふとなりけり糸すすき

うすら日を糸瓜へちまかはむけ井戸端に

ひときはにあをきは草の松林

大つぶもまじへて栗のはしり哉かな

鳳仙ほうせんくわたね花種をわりてぞもずのこゑ

(十五・十・十一 鶺鴒くげぬま沼)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

〇君の新秋

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>